

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.17 (March 2010)



KIFAクリスマス会にて (2009年12月13日)

Contents

- | | |
|--|-------|
| ☆ 会長あいさつ：藤田美保、 ☆ 蟹江町長あいさつ：横江淳一 | 2 |
| ☆ 2009年度実施の主要行事一覧 | 2 |
| ☆ 「モンゴル学生ホームステイプログラム」 & ホストファミリー体験談 | 3 & 4 |
| ☆ 「タオさんいつまでもお幸せに！」 (八神里美) | 5 |
| ☆ 「AFS留学生コーリーとの3週間」 (山口令布子) | 6 |
| ☆ 「KIFAとAFSとJamesくん」 (服部美恵子) | 7 |
| ☆ 「ワシントン&ニューヨーク・スタディーツアーに参加して」 (早川奈美子) | 7 |
| ☆ 「ヤンゴンのHIVの施設を訪ねて」 (磯部正弘) | 8 |
| ☆ 講演会「ウクライナの昔と今」を聴いて (大下和男) | 9 |
| ☆ 世界の国旗 (ベトナム)、2010年度行事予定、企業・賛助会員一覧 | 裏表紙 |

「かにえ国際交流友の会行事雑感」

会長 藤田美保

今年度も会員皆さまの協力のお陰で、諸行事がほぼ予定通り終わりほっとしています。しかし、例年のように年度末の難関は諸会員の次年度への継続依頼と、この挨拶文の作成(?)です。



さて、今年度の新規な行事として、当会報の記事にもありますように、

モンゴル学生の短期ホームステイ受け入れがありました。これも含めて最近の当会のホームステイ事業は「学生中心の受け入れ」事業のみとなっています。今後は、かつてハンブルグとの間で行ったような、私たちの「大人のホームステイ受け入れ・送り出し」事業も再びできればと考えます。ハンブルグ市民との交流は私たちに大変深く記憶に残る思い出を残していますので、特にそう思うところです。それにしても、ハンブルグ側の世話人であったユルゲン・ツーターさんの死去は大変残念で惜しまれます。

来年度に計画中の行事としては、会員有志でのミャンマー訪問があります。当会では過去何年間かミャンマーの子供関連施設に、町民祭りなどの出店での利益金を贈り援助して来ましたが、その援助結果を確認することが今回の目的の一つです。

このところ、単発的な新規行事はありますが、より多くの会員の方が参加できて、外国人と触れ合いあるいは外国事情を知るような新規の定例行事は設けられていません。この点も私を含め役員一同の今後の努力目標の一つだと考えます。

「かにえ国際交流友の会との協調」

町長 横江淳一

KIFAの皆様におかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。



蟹江町は、平成20年度から新たに中学生海外派遣交流事業をスタートさせ、平成22年3月にも中学生12名をアメリカ合衆国イリノイ州マリオン市へ派遣しました。また町としても同市と姉妹都市の調印式を並行して行いました。この姉妹都市提携を期に蟹江町は、これからさらなる国際化都市へと成長していきます。豊富な国際交流経験をお持ちのKIFAの皆様のご協力を仰ぎ、また、協働しながら、今後も国際化を進めていきたいと考えております。

蟹江町をはじめ、町周辺には多くの外国人のかたが住んでいます。KIFAについては町界を越えて近隣市町村の外国人の皆さんとの交流を深めるなど、地域の国際交流のさきがけとしての役割を果たしていただいております。今後は、国際交流促進のほかにもさらに活動を広げ、町の国際化、国際協力の面でも行政と協働し積極的に取り組んでいきたいと考えております。外国人と日本人の住民が共に住みやすいと思えるようなまちづくりを一緒にしていきましょう。

最後になりましたが、地域の住民と外国人をつなぐパイプ的役割として、ますます発展されますようご祈念申し上げますとともに、会員の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2009年度実施の主な行事一覧

開催日	行事内容
2009年 4月 12日 (日)	総会・懇親パーティー (公民館分館)
6月 14日 (日)	親善ボウリング大会 (カニエボウル)
8月 8日 (日)	町民夏祭り出店 (中央公民館前広場周辺)
8月 21日～ 23日	モンゴル学生7名のホームステイ受け入れ
10月 10日 (土)	町民秋祭り出店 (町役場前)
11日 (日)	同上
12月 13日 (日)	クリスマスパーティー (源才コミュニティーセンター)
2010年 3月 7日 (日)	国際交流関連講演会(「ウクライナの昔と今」と料理試食)
3月 31日	当会報 (No. 17) 発行

「名古屋大学で研修中のモンゴル大学法学部学生の短期ホームステイ」

2009年8月21日～8月23日

名古屋大学日本法教育研究センターでは、タシケント国立法科大学、モンゴル国立大学法学部およびハノイ法科大学に設置している日本法教育研究センターで学ぶ学生を受け入れて、名大で2週間の夏期セミナーを開いています。*その目的は日本の社会制度を理解することを通じて日本法の知識を深めることです。普段は名大の宿舎に滞在しているのですが、研修途中の3日間だけ日本人家庭にホームステイをして、日本の家庭生活を体験してもらうプログラムがあります。今回名大から依頼があって当会では下記のモンゴル人学生達を引き受けることになりました。

2泊3日という短い間でしたが各学生／家庭にとって、多少慌ただしくも貴重な体験をされたものと思います。名大の研修プログラムは継続するようですから、これからもホームステイを依頼されるかもしれません。なお、この研修に参加する学生はいずれも選ばれた優秀な者で、かつ日本語の会話に問題がない学生ばかりです。それで、今まで外国人に対するホストファミリーを経験したことのない会員の方にとってこのホームステイプログラムは大変良いチャンスだと思います。次の機会にはぜひ新しい方の応募をお待ちしています。

*) 研修期間：8/15～8/30

ゲストのモンゴル学生**とそのホスト名

氏名	日本語標記	性別	受入家族代表
1 Batjargal Bliguun	ビルグーン	男	藤田 美保
2 Chimedregzen Munkhbaigali	ムンフバイガリ	女	深山 加代子
3 Bayaraa Nyamchimeg	ニヤムチメグ	女	近藤 文雄
4 Chojamts Purevsuren	ブレブスレン	女	一柳 敏恵
5 Zorigt Tulga	トルガ	男	可児 園子
6 Myagmarsuren Tsendpurev	ツェンドブレブ	女	佐藤 篤松
7 Ochibat Chinkhusei	チンフセル	男	長坂 多美子

**) 所属はいずれもモンゴル国立大学3年生



名大に帰る前ホストの皆さんと共に
(役場庁舎の前にて)

「モンゴル学生のホームステイを引き受けて」

「エコちゃん」

深山 加代子

「ムフバイガリ」これがモンゴルから昨年夏に我が家に滞在した女子大生の名前です。難しい名前です。困っていたところ、「エコ」と呼んで下さい！と言われてほっとしました。自分の名前もモンゴル語の「自然」という意味でエコと同じらしいのです。去年も選ばれて名古屋大学に招かれたという賢い女の子で日本語も上手。会話にも全く不自由しません。モンゴルのこれからの理想とする法律についてとうとうと語るのにびっくり！ただ生野菜が苦手です。ほとんど食べず心配しました。焼いた肉に塩をつけて食べるのが一般的な食事のようで、おみやげもモンゴルの形をした岩塩でした。

好奇心旺盛なエコちゃんは念願だった京都を楽しみ、長島スパランドに出かけ、温泉にもゆっくり入り、我が家の愛犬スカイとも遊び、こちらまで若返った3日間でした。エコちゃんの将来の夢は日本に留学してさらに法律の勉強に励み弁護士になることです。彼女ならきっと立派な法律家になってモンゴルと日本の為に活躍してくれることでしょう。モンゴルが近く感じられるようになりました。



「トルガと過ごした3日間」

可児 園子

一面の青い空と広い大地。ロシア製のジープは何の目印も無い砂漠の中をキャンプ場目指してひた走る。自分たちの通った後が道になっていく。道中目にしたものはここで生活していた動物の骨となぜか



空のペットボトル。砂漠の真ん中にあるキャンプ場には移動式テントに牛糞ストープ。一方ではソーラーパネルが置いてあり携帯

電話やパソコンも。もちろん電気は通っておらず自家発電。…もう一度訪れてみたい不思議な国、たくましい国モンゴル。そのモンゴルからのお客様と聞きホームステイを楽しみにしていました。

やって来たのは法律を学ぶ大学生トルガ。まずは日本語がとても上手だったことに感激！積極的で気配りの出来る好青年でした。我が子（今は成人しています。）が小さかった頃に行って以来、何年ぶりかで長島スパランドや水族館に遊びに行ってきました。2泊3日、とにかく遊びまくりでした（トルガも私達もテンション高かったなあ）。お蔭様で若返りました。移動の車の中では将来の夢を熱く語ってくれました。大自然に育てられた逞しさを感じさせられました。お肉が大好きと言われたけれど、我が家は野菜中心。文句も言わずちゃんと食べてくれました（笑）。いつかモンゴルを訪れることを約束し、さわやかな思い出を残して帰って行きました。

「ニヤムチメグを受け入れて」

近藤 文雄

モンゴルからの留学生を二晩受け入れることになった。私がモンゴルに訪問したこともあるし、留学生のニヤムチメグもさすがに日本の大学に留学しているだけに日本語が話せるので気負うこともなく受け入れられたが、あまりにも短い期間であったため特に日本らしい家庭を体験させてあげられず、彼女にとっては気疲れしただけだったかもしれない。それでも長島の遊園地で遊んだことや家の庭で花火をしたことなど、日本留学中におけるちょっとした

気分転換になったのであれば幸いである。彼女たちのこれからの長い人生の中で留学時代を思い起こしたときに、日本留学の間のイベントとして記憶に残ってくれていれればと願う。またニヤムチメグが今後日本のことで何か知りたいことがあったときの問い合わせ先の候補の一つにでもしてもらえれば、役に立てることがあるかもしれないので、そのときは遠慮なく連絡してほしい。

彼女たちの将来の活躍を願ってやまない。

KIFA 英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜（月2回）、中央公民館 ★★

★ クラスA：午前9:00～10:30、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月¥2,000程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは受講者を募集中です。

詳細、申し込みは担当：青木猛、TEL：0567-31-1216まで。

ホーチミン市のタオから、下に示すような結婚式の招待状が届いた。ベトナムの結婚式は、2日間にわたって行われる。1日目は、日本の“結納”にあたる。花嫁さんは、お嫁さんの家に結婚式のために迎えに行く。2日目は、結婚式である。2日ともそれぞれパーティーが行われ、多い時には500名もの人が参加するそうだ。

1月は、ベトナムでは結婚シーズン。私がホーチミン市についた日も、夜の8時を過ぎていたがホテルやレストランで結婚パーティーが行われていた。ベトナムの花嫁衣装は、とても美しく鮮やかである。日本の“角かくし”のような“ほうし”をかぶり結婚写真を前撮りする。花嫁のタオさんは、とても美しく輝いていた。結婚パーティーでは、招かれた人が招待状にお金を入れて、パーティー受付のかごの中に入れる習慣がある。

パーティーの開始は、バンド演奏で始まった。音楽に合わせて若い男女のダンスに導かれ、新郎新婦、両家のご両親の登場だ。舞台の左右にはシャンペンタワーとケーキがあり、パーティを盛り上げてい



結婚衣装姿の新婦タオさんと新郎フンさん

た。女性の司会者による両親の紹介があり式は進む。シャンペンタワーに新郎新婦の手でシャンパンが注がれ、日本の三三九度のように互いにグラスを交互にさせ、飲み干す。料理と飲み物は、タイミングよく出される。私のテーブルは、タオさんのご主人の姉妹ファミリーと同じテーブルで、とても親切にさせていただき、ずっとベトナムに住んでいたかのような錯覚になった。ご両親が、私たちのテーブルに挨拶にいらっしゃった。ベトナムの方は、とても丁寧で信仰深い。丁寧な心こもった挨拶に私も思わず手をあわせ、あいさつをした。

パーティーは、食事がなくなると同時に参加者がいっせいに退席する。日本のように、両親への感謝の言葉や終わりの挨拶はない。そのため「あっけなく終わる」との印象を受ける。でも、こんな終わり方も簡潔で良いな。

タオさんとの出会いは、日本語教室(下記の案内参照)からである。ベトナムへの帰国後は、日本人の旅行ガイドとして活躍されている。私たちが旅行するときは、いつもタオさんにガイドをお願いする。とても丁寧で安心して旅行が続け

られる。そんなタオさんの「旦那さま」はとても優しい。初対面の私にも、いろいろ気遣いをしていただいた。そんなタオさんへ「ご結婚おめでとう！！」



結婚パーティーの会場で

ホットピックス：ベトナムにきて、自転車とオートバイの多さにカルチャーショックをする人も多いと思う。なんと、今回の旅行では、その「オートバイ」に乗ってホーチミン市を駆け巡る体験ができた！！“ちょーらっきー！”

結婚式への招待状(大きさはB5判くらい)



KIFA 日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30-12:00
蟹江児童館(蟹江中学校の北西角)
連絡先(担当)：松岡慎二、TEL/0567-95-9079

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30-21:00
中央公民館(蟹江町役場裏)
連絡先(担当)：八神里美、TEL/0567-95-0307

詳細については上記の役員までご連絡下さい。

「AFS留学生コーリーとの3週間」

山口 令布子

昨年の12月、我が家に、ニュージーランドから16歳の高校生コーリーという男の子がホームステイにやって来ました。我が家にとって、二回目のホームステイで、



京都の金閣寺にて

一回目は7年前でした。あの頃大学生だった長男は、現在オーストラリア在住、長女は社会人となり、中学生だった末娘は福岡の大学に通っており、今は大人3人の生活で、まさか再びホストファミリーを引き受けることになるとは思っていませんでした。

突然のホームステイの受け入れで、私も不安がたくさんあったのですが、こちら以上に、家族から離れ、初めて異国の見ず知らずの家庭に入るコーリーのほうが、どんなに大変だったかと思えます。しかし、たった3週間の短い間でしたが、我が家にとって、コーリーとの思い出は忘れられないものとなりました。というのも、コーリーにとっても、我が家にとっても、ラッキーなことがいくつか重なったからです。

一つ目は、1年以上オーストラリアにいた長男が、ちょうどこの時期だけ日本に帰って来たことです。男同士、コーリーもなついて、息子も弟のようにかわいがっていました。一気に賑やかな5人家族になりました。二つ目は、受け入れ先の中川商業高校の対応が、とても親切だったことです。おせち料理を作ったり、茶道、書道と色々な経験をさせてもらったようです。8割が女の子というクラスできっとモテモテだったと思います。三つ目は、KIFAのクリスマスパーティに参加できたことです。私にとっても、ここ2、3年、親の介護などで参加できなかったのが、久しぶりにKIFAの雰囲気を感じて楽しかったです。コーリーは、餅つきをしたり、日本以外の国の人と話が出来たり、特に、服部さん宅にホームステイ中のジェームスと知り合えたことはよかったと思います。後日、服部さん宅で夕食を呼ばれ、留学の先輩であるジェームスの話が聞けて楽しかったです。四つ目は、コーリーと京都に行った時のこと。大勢の参拝客で溢れる清水寺で、コーリーと同じニュージーランドの高校の女の子とばったり出あったのです。彼女もホストファミリーと京都にやって来ていて、迷子になって途方に迷っていたところでした。やがて、彼女のホストファミリーが、こちらを見つけてやってきましたが、まさかこんなところで会えるとは、お互い驚きでし

た。ほんのひと時でしたが、コーリーもきょうれしかかったと思います。

コーリーとの思い出は、まだまだたくさんあるのですが、ホストマザーとして、彼はとても素直でかわいい息子でした。学校へ行くときの「行ってきまーす。」「ただいまー」の元気のいい大きな声は、子供たちの小学生の頃を思い出し懐かしい気持ちになりました。会社から帰ってきた主人や娘が次々に、「今日学校はどうだった?」という質問に一生懸命答えていたのもほほえましかったです。好き嫌いがなく、私を作る料理やお弁当は「おいしい、おいしい」と何でも食べてくれました。でも、普通に作った我が家のカレーが辛いと言って、あまり食べなかったことがありました。そんなに辛いわけではないのですが、理由はすぐわかりました。彼はまだ子供なのです。甘口カレーにしなければいけなかったのです。

身長は180センチ近くある16歳ですが、夜は9時半には寝ます。車で遠出した時には、帰りは必ず車の中で寝てしまいます。回転寿司ではしゃぎ、トランプに勝つと大喜びし、負けると声を出してくやしがりました。ほんとに息子がもう一人出来た感じでした。なので、すっかり我が家になじんだコーリーが帰国するときは、本当に寂しかったです。「自分が帰ってから読んで」と渡してくれた手紙には、私たち家族ひとりひとりに感謝の言葉が



KIFAクリスマス会の餅つき

書かれていました。普段の生活で気持ちは充分伝わっていましたが、改めて文章を読むと胸が熱くなりました。今回のホームステイ受け入れに関して、いろんな人に感謝しています。まずは、コーリーとの出会いを作ってくれたAFSのお世話係の可児さん、精神面で心の支えになってくださった服部美恵子さん、コーリーが夕方遅くまで遊びに行ってお世話になった西村家の皆さん、ありがとうございました。

そして、ホームステイの受け入れに「いいじゃない。やろうよ!」と応援してくれた娘、いやな顔ひとつせず協力してくれた主人に感謝しています。ホストファミリーに少しでも関心のある方は、是非受け入れに挑戦してみることをお勧めします。留学生との異文化交流の楽しさを味わえることはもちろん、新しい家族の絆が生まれることは間違いありません。

「KIFAとAFSとJamesくん」

服部 美恵子

昨年のKIFAのクリスマス会に、James君をお招きいただき心から感謝いたします。お餅つき、手作りのお料理、それに音楽もとても気に入ったようです。

彼は米国ミズーリ州出身、18歳。2009年3月、高校生交換留学ボランティア組織AFSを通じYOSHI基金奨学生として来日、11ヶ月の留学体験をしました。東京都でホームステイしていましたが、AFSの異地域体験プログラムで、名古屋市の我が家に6日間だけ滞在しました。来日して急速に日本語が上手くなり、旭丘高校訪問でのディスカッションでは、日米の銃規制について日本語で話し合うことが出来るほどでした。でも時々「日本のウツ（鬱）が嫌い」なんて変な日本語で笑わせます。「日本のツユ（梅雨）が嫌い」と言いたかったのですけどね。1月の修学旅行先の沖縄では平和について勉強して来ました。頼もしいですね。東京では、法政大学付属高校の陸上部に所属。走る事が大好きで、名古屋でも毎日1時間のジョギングを



KIFAクリスマス会の餅つき

欠かしませんでした。残念ながら手が不器用で、ジャガイモの皮がむけず、料理のお手伝いは断念。長い滞在なら、ガツンと教え込むところです。愛すべきJames君に会うことが出来たのも、AFSのおかげですので、AFSのことを最後に紹介させていただきます。

AFSはAmerican Field Serviceの頭文字で、第1次世界大戦中、傷病兵の看護をするボランティアから始まりました。しかし戦争の根を断つには、世界の人たちが互いに理解しあうことが先決と考え高校生の交換留学を始めたのです。「宗教も思想も超えて世界平和」を究極の目的とするNPOです。おそらくこれはKIFAの皆さんの考えとも共通ではないでしょうか。より

多くの人たちにAFS活動に関わって欲しいと願っています。ホストファミリーとして参加されてはいかがですか。AFSが、全力でご家族のサポートをさせていただきます。ご希望の方は服部までご連絡ください。〔TEL & FAX:052-301-0417〕

「ワシントン&ニューヨーク・スタディーツアーに参加して」

早川 奈美子

「愛知県国際交流はなのき会」の「ワシントン、ニューク行きスタディーツアー」の新聞記事が目にとまり、2009年10月11日～18日迄ワシントン2泊、ニューヨーク3泊のツアーに参加しました。このツアーでは、ワシントンD.C.内のアメリカ連邦政府労働省女性局、全米女性機構(NOW)ワシントン本部、日本大使館広報センターの3ヶ所、ニューヨーク内は家庭裁判所、ジャパンソサエティ、大和総研アメリカ、ニューヨーク市家庭内暴力対策委員会、ニューヨーク東京海上記念診療所、高齢者介護施設「カテリレジデンス」の6ヶ所、計9ヶ所が公式訪問先として計画されていました。

ワシントンに着いた翌日はコロンバスデイの祝日のため公式訪問はなく、観光としてアメリカ記念館、スミソニアン博物館、国立アーリントン墓地などを回りました。私はこの中でアーリントン墓地が印象に残っております。

ここはアメリカ合衆国の国立墓地で戦没者の慰霊施設です。墓地の面積は2キロ平方mで、墓石には各々識別番号が刻印されており、インフォメーションセンターに設置してあるデータベースに



視察団一同アーリントン国立墓地入口にて

氏名を入力すると、墓石の識別番号が表示され、位置を認識することが出来るそうです。

「46歳で死去、第35代大統領ジョン・F・ケネディ」「生後2ヶ月で死亡、パトリオット」「妻、ジャックリーヌ」3人のお墓が、芝の手入れされた丘の上に仲良く並んでおかれていました。その前には円形の炎が赤々と燃え、とても印象的でした。ケネディ大統領は就任2年10ヶ月で若くして亡くなり、自分の夢を燃焼できなかったで、その未練が今もあって火を燃やしているのだとか、そのお話を噛み締めもう一度手を合わせました。観光地になっている墓地、初めて中に入り1時間位いたでしょうか。何か不思議な気がしましたが、これも文化の違いなのだと思います。何事に於いても頭から否定するのではなく、相手との違いを認め尊敬し、自分自身のモノサシを深めていくことが大切なのではないかと思いました。

私は今回、ワシントンとニュークの公式訪問先や観光で貴重な経験、体験をすることができ、思い切ったこのスタディーツアーに参加してよかったと感じています。

「ヤンゴンのHIVの施設を訪ねて」

磯部 正弘

2009年10月23日、半年振りにミャンマーを訪れました。今回も蟹江町国際交流友の会の皆様方のご依頼により、ヤンゴンに有るHIVの施設で暮らす子供たちを訪ねてまいりました（“HHHP”：この施設については前号を参照して下さい）。思い返しますと、僧侶の方が経営する小学校に図書館を建設しましたことから始まり、大きな水瓶：トイレ：別の小学校の校舎の間仕切り、そしてHIVの施設と、何度か国際交流の皆様方のお手伝いをさせていただきました。このHIVの施設も、私が初めて訪ねましたときは、13名の子供たちが生活をしており、次に訪ねました時は2人増え、1人が亡くなっており14名でした。それが今回は43名になっていました。建物も初めは1棟でしたが、5棟に増えていました。今年も国際交流の皆様方からお預かりしました1000 USドル（今回のレートで1USドル=1,070チャットで、1,070,000チャット）のご寄付をこの施設へ御届けさせていただきました。何度も訪ねますと子供たちとも顔なじみになり、その度に、「ああ今回も会うことが出来た」と思い、ほっとします。来年は2月9日に友達と3人で訪れる予定です。

（以下の2010年2月の訪問記に続く）

上記の訪問以来、四ヶ月ぶりにミャンマーを訪ねました。今回は京都の嵐山にあります天竜寺の塔頭の副住職と、友人の表具師との三人の予定でしたが、副住職が急にご都合が悪くなり、二人だけの旅になってしまいました。

四ヶ月ぶりに訪ねましたHIVの子供たちの施設は、建物は前回と同じでしたが子供たちの数は46人になっていました。ただ今回も一人も亡くなっていないことが救いでした。今回も沢山写真を撮ってきましたが、ほとんどの子供達が自分の写真を喜び楽しみにしてくれているようで、中にはシャッターを押すときポーズをとるおしゃまな子もいます。た

だ、一人の男の子だけ、進んで被写体になろうとはしません。その子は私が訪ねました最初からそこで生活をしている子で、年長で背もこの1～2年で私よりも高くなっています。その気持ちもわからないではありません。ですから無理にその子の写真を撮ることはありません。



HHHPの施設（フェンスに看板がある）

今回の旅行のもう一つの目的でありました、ミャンマー中部にありますザガイン近郊のワッチエ慈善病院を訪ねてまいりました。吉岡秀人医師が代表でボランティア活動をしており、日本のTVでも何度か紹介されていたので、以前から一度は訪ねてみたいと思ってました。突然でしたので、吉岡医師はご不在で女性の方からごく僅かの時

間でしたが、お話を伺う事が出来ました。ざっと百名の患者の方が治療を受けるのを待っておられ、現在、五～六名の看護師と其の時によって違いますが、1～3名の医師が治療に当たっているとの事です。またその診療所は僧侶の方の経営で、2004年から活動をしているとの事です。そしてびっくりしたのですが、その地域は外国人は入れない地域との事で、（私たちは勝手に入ってしまったとの事）次回もし訪れるなら東京のジャパンハートの事務局に連絡をして予定を知らせてくれれば落ち着いて対応が出来るとの事でした。ただ幸運なことに、僅かな時間でしたがお話を伺い、外で建物の写真を撮っているときに偶然吉岡医師が戻ってこられ、ご挨拶をすることが出来ました。国際交流の代表の皆様がミャンマーのこれらの施設を訪問されようとしておられますが、はっきり予定が決まりましたらジャパンハートの事務局に連絡を取り、円滑に訪れることが出来るようにしたいと思っております。

KIFAは、仕事の関係でミャンマーに詳しい磯部さんを通じて、ミャンマーの子供達の支援（小学校施設や児童支援施設などへの援助）を続けています。

ミャンマー施設訪問計画

当会ではこの8月23日から8月30日の予定（費用：全て含んで約25万円）でミャンマーを訪ねる計画があります。KIFAが過去に援助した小学校や、現在支援している施設を訪ねて見学すると同時に、ミャンマーを熟知されている、磯部さんの案内でミャンマーの各地の風土にも触れる予定です。この国は政情は不安定ですが、生活上の治安は他の東南アジア諸国よりむしろ良いとのことです。関心のある方、計画の詳細が決まり次第、説明会の案内を送ります。会長までお知らせ下さい（4月締めきりでお願いします）。

「国際交流講演会 —” ウクライナの昔と今” — を聴いて」

大下 和男

この時期恒例の「国際理解」の企画は一粒で二度おいしい。海外で活動する人や、その国の人から「生」でその国の実情を聞け、加えてその国の定番料理が試食できるのだから魅力的だ。

今回は、ウクライナ出身のアンナさんをお招きした。試食料理はボルシチとワレーニキで、いずれもウクライナの定番料理である。試食とはいえ、4-50人分ほどの料理を作るとなると調理室はあわただしい。幸いこの日は、来日中のアンナさんのお母さんイーナさんの手助けがありありがたかった。ワレーニキは一見大きめの水餃子である。不器用に皮を包む私をみかね、イーナさんが「こうするのよ」と、私の親指の付け根のあたりをワレーニキに



アンナ・グセンコさんと
母イーナさん、息子セミョン君



ウクライナの地図を前に国勢などを説明

見立てキュッキュッと押さえて手本を示してくれた。

さて、アンナさんによる講演は「ウクライナの昔と今」というテーマで、パワーポイントを使い、基本的に日本語で、表現の難しいところは英語になり、藤田会長らがサポートするかたちで行われた。演台の上には、ウクライナの色鮮やかな織物が並べられた。ウクライナは、日本の1.6倍の面積を持ち、肥沃な土地と天然資源にも恵まれた国で鉄鋼業を中心として重化学工業が発達しているという。この国もまた、その周辺の国々が大战やロシア革命などに翻弄された歴史を同様にもつ。先般の大統領選挙に見るようにロシアと欧米諸国の政治的経済的

影響を今なお受けつづけている。日本人に印象深いチェルノブイリ原発の事故のとき、アンナさんは6歳だった。彼女が住んでいたのは、そこから遠く離れたエナキエヴォという町だったことと、その頃の風の流れで、影響はむしろ北のベラルーシのほうが甚大

だった。パニックと機密漏洩を心配した当時のソビエト政府の報道の遅れもあり、彼女の町の人々が何か大変なことが起こったらしいと知ることになったのは、発生から2-3日たってから次第に情報が広まっていったという。

ウクライナ国旗は、空の青と、麦の黄色を表現している。アンナさんの紹介した空と広大なひまわり畑の写真も色彩的に国旗のそれに似ていた。首都キエフへのアクセスは、モスクワ経由等の空路のほか、モスクワから



試食用のボルシチをつくる



試食のワレーニキ

の鉄道もある。人と出会える鉄道の旅がお勧めだった。「ヨーロッパの穀倉」地帯と呼ばれる国である。車窓にひらける景色を想像すると心躍る。幾多の文化遺産、BGMで流れていた日本人に馴染み深いロシア民謡、動画で見たコサックの楽しい踊り。いずれも興味深く「いつかウクライナへ」の旅情がかきたたられ会は終わった。

国際交流関連講演会&試食会
題目：「ウクライナの昔と今」
講演者：アンナ・グセンコさん
日時：2010年3月7日

KIFA ポルトガル語教室へのお誘い

★★ 講師：渡邊ネチ先生、1回/月（火or土曜日）、中央公民館その他 ★★
★ 先生のクラス（火or土曜日）：相談で決定、自主勉強（月2-3回）：午後7:30～9:00 ★
会費は3ヶ月¥3,500程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは受講者を募集中です。
詳細、申し込みは担当：中西久子、TEL/0567-95-4749まで。

世界の国旗：ベトナム社会主義共和国



国旗は、1945年9月5日付の臨時大統領命令および1955年11月30日付の大統領命令で定められた。赤は社会主義国に共通の色で、革命の血を表し、黄色は国内の諸氏民族の団結を表している。一般に“金星紅旗とよばれている。

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

2010年度の年間行事予定

日時	行事
2010年4月18日	総会、懇親パーティー
6月13日	親善ボウリング大会
8月	蟹江夏まつり参加 (未定)
8月下旬	ミャンマーの視察旅行計画 (KIFAからの援助施設訪問)
10月9,10日	蟹江秋まつり参加
12月12日	クリスマス会
2011年3月6日	国際交流関連講演会
3月末	会報 (No.18) 発行予定

KIFA主催の通年教室 (講座)
日本語教室 (外国人向け)、英会話教室
ポルトガル語教室 (本文中に案内あり)

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

蟹江住宅設備 (株)	蟹江ライオンズ倶楽部	(株) 東洋工機
------------	------------	----------

賛助会員

アソビックス蟹江	イソベ商事 (株) 湯本館	イマニ外国語教室	宇佐美自転車商会
甘強酒造 (株)	共同建設 (有)	(株) クリントック	(株) 近藤溶接
西光寺	月星歯科クリニック	日光鋳工場 (株)	松屋呉服店
丸信製粉 (株)	(有) 宮長食品	もへの寿司	弥富高校
龍照院	(株) 若菜	渡辺畳店	

KIFA ホームページ <http://kifa.web.infoseek.co.jp>

☆☆ 編集後記 ☆☆

このKIFA会報は通常年1回、3月末に発行されます。内容は当会の年間行事関連報告等と、広い意味での「国際交流」関連の寄稿記事を中心に構成されています。記事等は常時受け付けていますので、どうぞ右記の宛先へお寄せ下さい (ふ)。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画情報課内

〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地

TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188